

## 公共施設

ビジネスプロジェクター  
導入事例

## 横浜港大さん橋国際客船ターミナル

(指定管理者:一般社団法人横浜港振興協会)

## 使用機種:EB-L210SW×20台

## 用途:プロジェクションマッピング

## 横浜港大さん橋国際客船ターミナル

所在地:神奈川県横浜市中区海岸通り1-1-4

最寄駅:横浜高速鉄道・みなとみらい線「日本大通り駅」3番または4番出口から徒歩約7分

ホームページ:<https://osanbashi.jp/>

横浜港大さん橋国際客船ターミナルは、年間100隻以上の客船が寄港する、横浜港のメインターミナルの1つだ。その屋上は、みなとみらい地区などの横浜港全体を見渡せる、眺望に優れた人気の観光スポットでもある。2024年11月、そのターミナル2階にて、エプソン製プロジェクターを用いたプロジェクションマッピングがスタートした。そこで、ターミナルの指定管理者である(一社)横浜港振興協会の岩田さん、企画担当の(一社)夜景観光コンベンション・ビューローの丸々さん、施工等担当の(株)ラストアイムの天田さんに導入の背景や効果などについて伺った。



型番:EB-L210SW

価格:オープンプライス

明るさ:4,000lm

スクリーン解像度:WXGA



## Before 導入課題

- ショップのある通路に賑わいを演出したい
- 限られた予算と電源容量の範囲内で必要な明るさを得たい
- 短い距離で広い範囲に投写したい

## After 導入効果

- 通路全体のプロジェクションマッピングで賑わいを演出
- レーザー光源の省電力モデルで必要十分な輝度が得られた
- 短焦点レンズ搭載モデルの導入で広い範囲を投写できた

ターミナルで行われているプロジェクションマッピング「Osanbashi Yokohama Night Aquarium」の様子。2階のショップ前通路にて、毎日17時～20時に実施されている(2025年7月時点)。約51mの通路や約25mの壁面に泳ぐくじらや魚たちが投写され、水族館に居るかのような映像が楽しめる。コンテンツは3種類用意されており、ループ再生される。

## 「輝度や解像度を欲張らず、予算や環境に最適な機材で没入感のある空間を演出」

## 導入背景

## ショップの並ぶ長い通路全体に賑わいを演出したい

(一社)横浜港振興協会では、ターミナルの指定管理者として施設管理のほか、集客や観光振興などの面でも様々な施策を行っています。例えば、屋上でのイルミネーションは、7年間続く本館の人気企画です。そうしたなかで、本館でプロジェクションマッピングを行うというアイデアは、長年考えてきたものの1つでした。

また、それとは別に、屋上だけでなく屋内でもお客様に楽しんでいただける仕掛けを作り出せないかという思いもありました。アイデアとしては、ターミナルの屋上は「くじらのせなか」という愛称があることから、

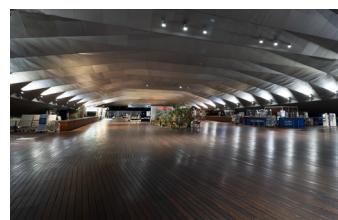
ロビーにくじらが泳いでいたら楽しいのではないかといったものがありました。

そこで、外光が入りにくい構造のショップ前の通路であれば、プロジェクションマッピングができるのではないか、そして水族館をテーマにくじらを泳がせたら、本館らしさを演出できるのではないかと考えたのが、今回の企画です。ショップ前に賑わいを作り、お客様が立ち寄りやすい環境を演出できることもあり、プロジェクションマッピングを実施することにしました。(岩田さん談)



◀横浜大さん橋国際客船ターミナルは、2階建ての大型施設。その屋上では、左の写真のように素晴らしい夜景が見られる。プロジェクションマッピングと夜景が一度に楽しめる場所として、注目されつつある。

▶客船ターミナル2階の出入国ロビーの様子。このほか、多種多様なイベントなどが行われる「大さん橋ホール」、出入国管理などを実行するためのCIQプラザ(客船寄港時以外はホールとして利用可)など、海の玄関口らしい広大なスペースを擁する。1階には普通車最大400台、バス6台が収容可能な有料駐車場もある。



一般社団法人横浜港振興協会  
常務理事  
管理運営責任者・館長  
岩田秀夫さん



一般社団法人  
夜景観光コンベンション・ビューロー  
代表理事・夜景評論家  
丸々もとおさん



株式会社ラストアイム  
代表取締役  
天田高人さん

## 導入理由

## 高輝度モデルを使わなくても十分に魅力的な空間演出が行えました

機材の選定では、候補は3社の製品がありましたが、軽さやサイズ、省電力性、明るさと短焦点レンズの採用、コストなどを総合的に比較した結果、エプソンのEB-L210SWが一番適していると判断しました。特に省電力性については、施設の電源容量が決まっており、増やすには相応のコストがかかるため重要でした。

プロジェクトマッピングに用いる機材は、7000lm以上の高輝度モデルが多いのですが、ターミナルの環境や予算などを考慮しつつ試行錯誤した結果、4000lmの本機でも十分魅力ある空間が実現できることが分かってきました。一部、店舗の照明を調整していただきましたが、こうしたご協力もあって没入感のある空間にできました。

## 導入効果

## 多くの方が楽しめて、集客や情報拡散力のある演出ができました

まず、岩田館長には、企画を実施するにあたり、横浜市や(一社)横浜港振興協会、ターミナルのスタッフなど、多くの方々との交渉を繰り返す必要があり、大変だったんだろうと思います。それでも上手く実施できたのは、単にプロジェクションマッピングをやりたいという熱意があるだけではなく、ターミナル全体を見渡した上でプロジェクションマッピングを行うことで、どういった効果やメリットがあるかを、総合的に考えていたからこそ、実現できたのだと思います。

次に具体的な効果の一例としては、SNSなどの情報拡散効果が高まった点があります。プロジェクションマッピングを写真に撮ってSNSにアップするお客様が増えたことで集客なども見込め、意義のある企画に



### ＜工夫したポイント＞

床は、基本的に板張りとなっているため、そのまま投写すると、色再現が悪く映像が見えにくくなってしまう。そこで、滑り止め効果のある白いシートを床にラッピングした。これにより、色鮮やかな映像を楽しむようにできた。(写真・上2点)  
壁面は天井が連続した山型になっているため、山型1つに1台ずつのプロジェクターを設置。計20台のプロジェクターが必要になったが、解像度を欲張らず720pにしたことで、1台のSTB(セット・トップ・ボックス)で映像を制御できた。(写真・左)



今回の機種提案や施工、コンテンツ制作では、私も学ばせていただくことが多かったのですが、**高輝度モデルにこだわらなくても、環境や予算に合った機種を選べば、皆が納得できる空間演出が実現できます。**この企画は、限られた予算でプロジェクションマッピングを実施したいという方の参考にもなると思います。(天田さん談)



天井設置を基本としたが、天井の形状が複雑で斜め上から床に投写した場所なども多い。その点、取り付け自由度が高いレーザー光源採用で小型軽量なEB-L210SWは最適だった。本機は、4000lmの輝度を300W以下で実現。電源容量が限られるなかでも、必要な20台を稼働できた。

できたと感じています。(丸々さん談)

本企画は、長い間実現したいと考えていたものであり、大きなクジラが泳いでいる様子を見たときは、思い描いていたとおりに仕上がったという印象でした。今回のコンテンツは、リアリティのある水族館を目指したので一見派手はありませんが、空間全体としての完成度が高く、ベンチに座って、ゆっくり鑑賞されるお客様も少なくありません。

各ショップの方からは、通路に賑わいやお客様の導線ができたことを喜ぶ声が聞かれました。今後、コンテンツを変えるなどし、プロジェクションマッピングを新定番化することで、少しずつでも集客に寄与できるのではないかと思います。(岩田さん談)



輝度4000lmは、プロジェクションマッピング用として明るくはないが、お客様が空間に入っていく条件なら、必ずしも明るなければ良い訳ではなく、コンテンツに合った明るさにする必要がある。その点で、EB-L210SWは最適であった(写真・左上)。天井が連続した山型で、山型1つに1台ずつのプロジェクターを要したが、つなぎ目も自然で没入感のある映像演出ができた(写真・上)。魚やクジラを追いかけれる人や子どもたちもいて、楽しんでいるのが伝わってくる(写真・左)。

## 今後の展望

## ターミナルの「新定番」として、今後も長く続けていきたいと考えています

今後は、まず、コンテンツを変えるなど、リピーターのお客様でも飽きないようにしたいと思います。現在、壁面はグレーなので、これを白壁にしたら、映像がさらに映えるのではないかとも考えています。

将来的には、コンテンツのインタラクティブラ化もできたら、お客様にさらに楽しんでいただけそうです。電源容量も、将来的には増やす方向になると思います。プロジェクターにも大きな電力を供給できるようになり、

台数を増やして館内のほかの場所でプロジェクションマッピングを実施するといったこともできそうです。

このように、今回の企画はイベントを1回実施して終わりというものではありません。長く続けて、ターミナルの新定番にしたいという思いがあります。お客様には、今回のコンテンツだけでなく、今後の展開も楽しみにしていただけたらと思います。(岩田さん談)